

# 大阪大学医学部附属病院での プロトコル活用事例について

日本調剤阪大前薬局 森祐一郎

# 大阪大学医学部附属病院での プロトコル活用事例について

日本調剤阪大前薬局 森祐一郎

# 事例①

## 整形外科

セレコックス錠200mg 2錠

分2 朝夕食後すぐ 70日分

ボナロン錠35mg 1錠

分1 起床時 70日分

※週1回服用のボナロン錠35mg が他の処方と同一日数での処方あり。

④ビスホスホネート製剤の週 1 回あるいは月 1 回製剤が、連日投与の他の処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化（処方間違いが明確な場合）

例 1 ) (他の処方薬が 14 日分処方の場合)

ベネット錠 17.5mg (週 1 回製剤) 1 錠 分 1 起床時 14 日分 ⇒ 2 日分

\* 薬歴上で処方間違いが明確な場合

\* 患者に使用方法、価格等を説明後、同意を得たうえで変更

# 事例①

## 整形外科

セレコックス錠200mg 2錠

分2 朝夕食後すぐ 70日分

ボナロン錠35mg 1錠

分1 起床時 70日分 →10日分

※週1回服用のボナロン錠35mg が他の処方と同一日数での処方あり。

# 事例①

## 整形外科

セレコックス錠200mg 2錠

分2 朝夕食後すぐ 70日分

ボナロン錠35mg 1錠

分1 起床時 70日分 →10日分

※週1回服用のボナロン錠35mg が他の処方と同一日数での処方あり。

## 事例②

### 内科

ミカルディス錠40mg 1錠

分1 朝食後すぐ 70日分

アムロジン錠5mg 1錠

分1 夕食後すぐ 70日分

※来局時に、ミカルディス40mg 50錠残薬があるので、  
減らしてほしいと依頼あり。

③ 薬歴上継続処方されている処方薬に残薬があるため、数量を減じて調剤すること

例1) 処方：ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「●●」 28 日分  
⇒ 22 日（6日残薬がある場合）

例2) アンテベート軟膏 3本 ⇒ 2本  
（1本残薬がある場合）

- \* 薬剤の削除が必要になる場合は、疑義照会を行う
- \* 患者に使用方法、価格等を説明後、同意を得たうえで減量



## 事例②

### 内科

ミカルディス錠40mg 1錠

分1 朝食後すぐ 70日分 →20日分へ

アムロジン錠5mg 1錠

分1 夕食後すぐ 70日分

※来局時に、ミカルディス40mg 50錠残薬があるので、減らしてほしいと依頼あり。

## 事例②

### 内科

ミカルディス錠40mg 1錠

分1 朝食後すぐ 70日分 →20日分へ

アムロジン錠5mg 1錠

分1 夕食後すぐ 70日分

※来局時に、ミカルディス40mg 50錠残薬があるので、減らしてほしいと依頼あり。

## 事例③

### 脳神経外科

テグレトール錠200mg 1錠

分2 朝夕食後すぐ 70日分 (薬局在庫0錠)

フィコンパ錠2mg 2錠

分1 寝る前 70日分

※患者様はお手持ちの薬がなく、すぐに薬が必要。

薬局にはテグレトール錠100mgのみ200錠在庫あり。

《申合せ事項》【共通プロトコル】

① 薬剤の変更（変更前後の薬剤間で医薬品・医療機器等法で承認された投与経路及び効能・効果が一致する場合に限る）

3) 含量規格が異なる製剤がある場合の含量規格の変更

例1) アムロジン OD錠 5mg 1回2錠 ⇔ アムロジン OD錠 10mg 1回1錠

例2) ミカルディス錠 40mg 1回0.5錠 ⇔ ミカルディス錠 20mg 1回1錠

例3) リンデロン-V軟膏 0.12% (5g/本) 6本 ⇔ リンデロン-V軟膏 0.12% (10g/本) 3本

例4) カロナール細粒 50% ⇔ カロナール細粒 20%

\*患者に使用方法、安定性、価格等を説明後、同意を得たうえで変更

## 事例③

### 脳神経外科

テグレトール錠200mg 1錠 →テグレトール錠100mg 2錠  
分2 朝夕食後すぐ 70日分

フィコンパ錠2mg 2錠  
分1 寝る前 70日分

※患者様はお手持ちの薬がなく、すぐに薬が必要。  
薬局にはテグレトール錠100mgのみ200錠在庫あり。

# まとめ

- プロトコルにより、保険薬局での判断で、柔軟な対応が可能。
- 在庫面・待ち時間の負担も減少。

以上です  
ご清聴ありがとうございました